

国立大学法人福岡教育大学学長の業績評価結果について

令和 6 年 1 月 2 5 日
国立大学法人福岡教育大学
学 長 選 考 ・ 監 察 会 議

国立大学法人福岡教育大学学長選考・監察会議（以下、「本会議」という。）は、「国立大学法人福岡教育大学学長選考等規程」第 13 条及び「国立大学法人福岡教育大学学長の業績評価に関する細則」第 5 条並びに「国立大学法人福岡教育大学学長の業績評価の実施に関する申合せ」に基づき、下記のとおり、令和 4 年度の国立大学法人福岡教育大学学長の業績評価を実施しました。令和 4 年度を以て、学長は任期（令和 2 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日）の前半を終えたこととなりますので、中間評価も含めてその結果を公表します。

記

1 学長氏名 飯 田 慎 司

2 令和 4 年度の業績評価

（１）評価対象期間 令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

（２）評価結果 概ね良好な成果を収めたと評価する。

〔総 評〕 飯田慎司学長は、第 4 期中期目標期間の初年度である令和 4 年度において、第 3 期中期目標期間に続き、堅実な法人経営を行うとともに、種々の取組・改革を実行した。すなわち、運営組織等の改革に関する方針の決定、着実な中期計画の実施体制の構築、北海道教育大学・大阪教育大学との共同博士課程の設置や教職大学院の拡充に関する検討、宗像特別支援学校（仮称）新設への対応、教学共創マネジメントセンターの設置、令和 5 年度学士課程改革への対応等にリーダーシップを発揮したところである。

また、厳しい財政事情の中にあって、大学の経営力を強化する取組として、財務戦略企画室の新設、資金運用の拡大や不要資産の売却等を行い資源配分の改革に努めるとともに、大学の将来を見据え、人事方針の策定・大学教員の計画的な採用や大学・附属学校の施設整備等、中長期的な観点に立った施策も行っている。

令和 4 年度においても、コロナ禍は依然として大学経営に影響を及ぼす状況にあったが、大学及び附属学校園においては、逆境から得た成果を活かしながら、教育研究活動が行われた。附属学校における「オンライン授業の日」の設定、キャリア支援における対面・オンラインを併用した指導等は、教職員の創意工夫を活かしたマネジメントの実践の成果といえる。

以上のように、飯田学長は、令和 4 年度においても、中長期的な展望を持った取組を積極的に行うとともに、目の前の課題に対しても適切に対応してきた。令和 4 年度卒業生・修了生についても教員就職者数・教員就職率は全国トップクラスの結果であったことから、安定した大学経営ができていると判断でき、本会議は、飯田慎司学長の令和 4 年度の業績について、第 4 期中期目標期間初年度の業務を着実に遂行し、概ね良好な成果を収めたと評価する。

〔その他の意見〕

- ・ 教員就職者数・教員就職率で全国トップクラスの結果を挙げ続けていることは、大いに評価できる。他方で卒業・修了後の状況においてこそ、福岡教育大学の教員養成の真価が問われることになる。教員養成の質・量双方で成果を出し続けることができるように、卒業生・修了生へのフォローや IR 等に基づく検証作業や新たな取組を期待したい。
- ・ 九州地域における教員養成の広域拠点大学として果たすべき役割をより明確にした具体的な取組・施策の実施を期待したい。
- ・ 附属学校園の取組・成果に関する情報発信をより積極的に行っていただきたい。
- ・ 大学及び附属学校の施設及び設備の修繕について、計画的・継続的に取り組み、快適性の向上に努めていただきたい。
- ・ 学士課程、専門職学位課程そして今後は博士課程も含めて、それぞれの教育研究が円滑に機能するような教育指導体制を整備いただきたい。
- ・ 大学教員の世代交代が進む中、若手や中堅だけでなくシニア世代の教員の活用も積極的に検討いただきたい。

3 令和 2～4 年度の間評価

(1) 評価対象期間 令和 2 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

(2) 評価結果 任期前半の業務の状況は概ね良好である。任期後半においても、引き続き着実な業務の執行及び後継者育成等、持続的な経営力の強化を期待する。

〔総 評〕 飯田慎司学長は、就任直後からコロナ禍がもたらしたさまざまな困難に立ち向かうこととなったが、任期前半の 3 年間を通して、着実に業務を遂行した。特に、多くの卒業生・修了生を教員として送り出し、教員就職者数・教員就職率ともに、全国トップクラスの成果を出すことができたことは、特筆すべきことである。また、学士課程・大学院の改革、教学共創マネジメントセンターの発足、敷地内における福岡県立特別支援学校の設置等、福岡教育大学の将来を見据えた施策も着実に実行できている。

令和 5～7 年度の任期後半においても引き続き、着実に必要な施策を実施いただき、次代の大学を担う人材の育成や次期体制の構築に向けた準備を進めていくことを期待する。

〔その他の意見〕

- ・ 福岡教育大学及びその教員養成や教員研修が、多くの人々から支持される「ブランド」となるよう、大学を挙げた統合的な広報戦略・イメージ戦略に基づく取組の実施を期待したい。
- ・ 福岡教育大学は、大学・附属学校園の構成員全てに社会からの高い信頼を得て存在していることに鑑み、教職員や学生・児童生徒に対して倫理意識・使命感の涵養に今後も努めていただきたい。

4 確認状況 以下の内容毎に、業務執行の状況について確認した。

(1) 令和4年度の業務執行の状況について

①中長期的なビジョンを持ち、必要な取り組みを企画・立案し、確実に実行しているか。

運営組織等の改革に関する方針の決定、中期目標・中期計画に関する進捗管理及び自己点検・評価の体制整備と実施、3大学共同博士課程の設置検討、クロスアポイントメント制度の整備・実施、附属幼稚園における預かり保育の開始、教学共創マネジメントセンターの設置、令和5年度からの学士課程改革への等の取組について確認した。

②教員養成系単科大学として、九州で唯一広域拠点大学に選定されている特色を生かし、国、教育委員会や連携協力校等と円滑な関係を構築し、幅広い視野を持って教育研究及び社会連携事業を推進しているか。

教員養成の質向上に関する諮問会議の開催、九州教員研修支援ネットワークの事業推進、福岡県内における教員研修支援事業の取組、宗像市・福津市の児童生徒を対象にした教師体験の取組、附属学校における研究・研修等に関する取組等について確認した。

③本学の教育研究成果及び地域貢献について広く社会に発信しているか。

学生等アンケートの実施と結果の公表、教育委員会等への意見聴取に基づく広報活動改善の推進、受験生に向けたWEB広告の掲載や学生ボランティアとの協業によるSNSを用いた広報活動の開始等の取組について確認した。

④地方創生に繋がる取り組みを推進しているか。

福岡県・宗像市・福岡教育大学の三者連携による宗像特別支援学校（仮称）の新設に向けた取組、むなかた大学のまち協議会への参画等の取組について確認した。

⑤教育研究力の向上に資するため、必要に応じて業績評価を見直しているか。

大学教員活動評価の実施及び大学教員活動評価基準の見直しについて確認した。

⑥新たな国立大学法人の評価、資源配分の抜本的改革に対応するとともに、大学経営力を強化し、必要な改革を推進しているか。

財務戦略企画室の新設、無担保社債による資金運用の開始、老朽施設の処分による維持管理経費の削減、不要資産の売却や会計マネジメント改革等の取組について確認した。

⑦学生が教員として夢と希望を持ち社会に羽ばたくことのできる魅力ある大学づくりをめざし、全国トップクラスの教員養成系大学としてブランドを構築しているか。

教員就職に関するさまざまな支援や学生のボランティア活動の推進及びその認定制度の普及等の取組について確認した。

⑧時代の変化に即応した新しい教職員の人事評価制度を再構築しているか。

人事方針の策定・公表、福岡教育大学が目指す大学教員の年代構成に関する目標比率の設定・公表や大学教員の年俸制適用教員が増加している状況等について確認した。

(2) 令和2～4年度における全般的な状況について

⑨学長就任から3年間に行った施策の総括や今後の法人経営における体制等を見据えた取り組みを行うことができているか。

学長からの提出資料及びプレゼンテーション・質疑応答の内容から、任期前半の取り組みの成果や課題をふまえ、内部統制機能の実質化や強靱なガバナンス体制の構築に向けた取組等、福岡教育大学の将来を見据えた令和5年度以降の具体的な構想や施策を検討していることを確認した。

5 経過

- ・令和5年6月28日 学長選考・監察会議（第1回）開催
学長業績評価のスケジュールを審議
- ・令和5年9月27日 学長選考・監察会議（第2回）開催
学長の業績評価に係るプレゼンテーションの実施項目を審議
- ・令和5年12月21日 学長選考・監察会議（第3回）開催
学長によるプレゼンテーションの実施・質疑応答、学長の業績評価に関する審議
- ・令和6年1月25日 学長選考・監察会議（第4回）開催
学長の業績評価に関する審議